

見る・聴く・感じる

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

イントロダクション



対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性

スキル領域

聴覚認知、言語受容、言語表現、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、粗大運動、感覚統合

目標

参加者は、

1. ドラムテーブルと器材について学ぶ。
2. 感覚的なインプットを受け入れて処理をすることをはじめ。
3. 入ってきた情報や感覚的なインプットを処理し、それに対する感想を言語・非言語で表現する。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. ドラムとスタンドの設置と調整の方法を理解する。
2. 見る、聴く、感じるというドラムの感覚的な要素にどう対応していけばよいかを理解する。
3. 聞いたこと、見たこと、感じたことについて追及し、感想を話し始める。(視覚、聴覚障害のある参加者にも同様に適用可能)
4. ドラムテーブルをマレットや手で叩く。

教材

■レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット1人2本ずつ
※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多いグループでは交代して叩くようにする。

■ドラムテーブルアクティビティシリーズ
Videoレッスン1
comfortsoundtechnology.com/lessons (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

1. ドラムとコンフォート・サウンド・テクノロジーを紹介します。言葉でのコミュニケーションに限界のあるグループでは、言葉による説明でなく簡単にやって見せるのがよいでしょう。まずドラムの前の椅子に腰かけさせて叩きはじめますが、参加者には手を軽くドラムのヘッドに置かせて、ドラムの音を聞いたり振動を感じるようにさせ「どんな感じがする？」とか、「どんな音がする？」などと質問します。その後に参加者に立ってもらいます。
2. 立って演奏するため、参加者とスタッフに見せつつ、ドラムの高さを上げて調節します。ドラムの下に一人ずつ順番に座ってもらいます。どんな体験だったかをきいてみましょう。
3. 次に、参加者にドラムを叩いてもらいながら、頭を低くしてヘッドに視線を合わせてもらいましょう。ドラムヘッドが振動してどう動いているかを見てもらいます。
4. 参加者にマレットを渡して、実際にドラムを叩いていろいろな感覚があることを体験してもらいましょう。

応用編

1. もしあれば他の太鼓を持ってきて、GST との音の違いを聴きましょう。
2. 小さいボールやタンブリン、クッシュボール、ハックサック（お手玉のようなもの）、光るボールなどをドラムの上に置いて叩いてみましょう。
3. 電灯を消すか、順番で目を閉じて、音の聞こえ方や感じ方を観察してもらいましょう。
4. その他にも光るマレット、ビーズ、ひもなど、感覚を引き出すいろいろな物使ってみましょう。

参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士
音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.

フレーズとフォーム

対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性、演奏/レクリエーション

スキル領域

聴覚認知、言語受容、言語表現、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、算数、音楽、シークエンシング、記憶と注意力の保持、粗大運動、チームワーク、想像力/即興能力、音楽鑑賞

目標

参加者は、

1. リズムのフレーズや音楽の形式、それらが音楽のなかでどのように使われているかを学ぶ。
2. いろいろなリズムを聞き、叩いてみる。
3. シンプルなリズムをいろいろ組み合わせてみて、音楽にする。
4. 歌をセクションに区切って学ぶ。
5. 言葉の音節のリズムを聞いて、ドラムで再現するようになる。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. いろいろなリズムパターンを聞き、ドラムでまねをする。
2. オリジナルのリズムの作り方がわかる。
3. フレーズやフォームの中の特徴的なリズムやリズムの組み合わせを聴きとりリピートする。
4. シークエンスをつくる、リズムスキルの向上に取り組む。

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン 1



教材

- レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット 1 人 2 本ずつ
- ※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多いグループでは交代して叩く。
- ドラムテーブルアクティビティシリーズ
Videoレッスン 1
comfortsoundtechnology.com/lessons (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

参考情報

全米音楽療法協会
<http://www.musictherapy.org/>
The ComfortSound
<http://www.thecomfortsound.com/>
REMO, Inc. <http://remo.com/>

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

本アクティビティはレッスン5「叩いてうたう」の後に行なうと円滑に進行することができます。

1. ドラムテーブルで、簡単なリズムパターンをやって見せることから始めます。
例) 1・2・チャチャ、ジングルベル、ハッピーバースディなど。
2. ドラムテーブルを囲んでリズムパスを数回行ったあと、今度は参加者がリードして自分の作ったリズムパターンを渡していくようにする。そのとき、できるだけ簡単なパターンやフレーズにするように勧めましょう。
3. 歌の構成について話します。ドラムが演奏の中でどう使われるか説明します。異なるリズムのパターンやフレーズをつなげていかに歌を作るかを説明します。
4. 2つか3つの単純なフレーズを組み合わせる例を見せます。
1・2・チャチャチャ、ジングルベル、エ・ミ・リー（人名）など。
5. “This Old Man”（数え歌の童謡）など良く知っている歌を叩きながら歌ってみましょう。
6. 歌なしで演奏してもらい、リズムを聴きます。
7. 能力レベルに応じて、歌のはじまり・中間・終わりや、歌詞・コーラスなど歌の構成（フォーム）について話します。
8. 3つのリズムのフレーズをはじまり・中間・終わりとして使い、ひとつの歌をつくってみましょう。
例) はじまり＝ 1・2・チャチャチャ×3回
中 間＝ ジングルベル×2回
終 わ り＝ エ・ミ・リー×8回
生徒に順番に演奏してもらいましょう。

応用編

1. 生徒に自分独自のフレーズや組み合わせを作ってもらいましょう。
2. 体の動きもとりにいれてみましょう。（足踏み、ダンス、体を揺らす、手を叩くなど）
3. 曲にテンポや音量の変化をつけてみましょう。
4. 「名前ゲーム」をやってみましょう。順番にグループのメンバーの名前でリズムを叩きます。

バックミュージックに 合わせて演奏する

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン 2



対象項目

コミュニケーション、知識、感覚運動、社会性、
演奏/レクリエーション

スキル領域

聴覚認知、言語受容、言語表現、言語コミュニケーション、非言語コ
ミュニケーション、音楽、感覚の統合、粗大運動、チームワーク、創
造力/即興能力、音楽鑑賞、演奏

目標

参加者は、

1. バックミュージックに合わせて演奏できるようになる。
2. 音楽に合ったタイミングとリズムで演奏できるようになる。
3. 即興をはじめめる。
4. 指示がないアクティビティでも自分でできるようになる。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. 歌を聴いて、合わせて演奏する。
2. 自分独自のリズムの作り方がわかる。
3. 音楽に合わせて体の部分を大きく動かす。
4. 音楽に合わせて、動いたり、手を叩いたり、足踏みしたり、シ
ェイカーを振ったり、ドラムや他の楽器を叩く。
5. 音楽の好みを表現してコミュニケーションをとりはじめる。

教材

■レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット 1 人 2 本ずつ
※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多
いグループでは交代して叩くよ
うにする。

■音楽プレイヤー

(CD, MP3, PC, iPad など)

いろいろな歌、いろいろなジャ
ンルの音楽にアクセスできるよ
うにしておく。

■ドラムテーブルアクティビテ ィシリーズ

Video レッスン 2

[comfortsoundtechnology.com/le
ssons](http://comfortsoundtechnology.com/lessons) (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修
了した信頼の置けるプロが療法
の一環として関わり、個々に設
定された目標を達成するために
臨床的に証明された音楽の使用
を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士である
か、認定音楽療法士と協力して
行う場合、付属資料「音楽療法
ガイドライン」を参考いただき、
対象者へのより深い機会の提供
にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。家庭や教室で、また慣れたミュージシャンでも全くの初心者でも、レモドラムテーブルを使う一番簡単な方法は、事前に録音した音源やバックミュージックに合わせて使うことです。

1. どの音楽をバックで流したらよいかのヒントは参加者にありません。参加者ひとりひとりやグループ全体に響く音楽を選ぶことができれば、集中力や参加意識を高めることができますでしょう。言語コミュニケーション能力に制限がある参加者の場合には、コミュニケーションを補完できる iPads, Mayer-Johnson Symbols やビジュアル要素のあるプレイリストなどの使用も考慮します。120BPM のテンポで安定したビートの音楽や、ビートに合わせてダンスやタップがしやすい曲を選びましょう。（最近の研究では、Pharrell Williams の”Happy”などは、予測が容易なリズムと適度なシンコペーションのバランスで、音楽に合わせてダンスしたり体を動かしたりしたくなることが指摘されています。またファンクやディスコミュージック、R&B やモータウンのオフ・ビートリズムも、音楽に合わせて足でリズムをとりやすいでしょう）
2. 参加者にふさわしいバックミュージックを選んだら、合わせて演奏するためにこれから音楽をかけることを説明します。

応用編

1. 生徒に自分独自のフレーズや組み合わせを作ってもらいましょう。
2. 体の動きをとりいれてみましょう。（足踏み、ダンス、体を揺らす、手を叩くなど）
3. 曲にテンポや音量の変化をつけてみましょう。
4. 「名前ゲーム」をやってみましょう。順番にグループのメンバーの名前でリズムを叩きます。

参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士

音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.

数を数えて演奏・交代する

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン 3



対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性、

スキル領域

言葉の理解、算数、シーケンシング、集中力、粗大運動、順番で交代する/衝動のコントロール、チームワーク

目標

参加者は、

1. ドラムを順番に叩き、マレットを次の人に渡して交代する。
2. お互いにやりとりをする。
3. パターンの違いを認識して、カウントが分かる。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. 交代すべきときとそうでないときの順番が分かる。
2. 腕と手の動きを存分に使いながら、次に渡す、数えることをする。

教材

■レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット 1人2本ずつ
※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多い
グループでは交代して叩くよ
うにする。

■ドラムテーブルアクティビティ
シリーズ

Videoレッスン 3

comfortsoundtechnology.com/lessons
(ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の
一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用
を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士である
か、認定音楽療法士と協力して
行う場合、付属資料「音楽療法
ガイドライン」を参考いただき、
対象者へのより深い機会の提供
にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

1. マレット1本からはじめます。参加者に、左にいる参加者、右の参加者を見て確認してもらいます。聴くこと、交代すること、パートナーにマレットを丁寧に渡すことの重要性について話し合うよう導きます。輪のどちらの方向に回すかを決めます。パートナーの目を見て、マレットを渡すお手本を見せます。その後、マレットを渡して順番に回って叩くようにします。その後、逆の方向でやってみます。
2. 次に、マレットで1回ドラムを叩いてから次の人に渡します。何周かうまくできたら、2回叩いて渡す、4回叩いて渡す、というように叩く回数を増やすなどしてみます。全員でいっしょに声を大きく出してカウントするようにしましょう。逆方向に戻るのも忘れないようにします。
3. 何周かうまくできたら、参加者自身にパスさせること、決めること、何度叩くか伝えることのリードを任せます。

応用編

1. CDの音楽に合わせ、演奏したりカウントしたりします。
2. マレットを2本に増やして両手で演奏します。
3. たとえばドラムのリム（端）など、ドラムのヘッドではない部分を叩いていろんな音でカウントしてみます。
例) 1・2でドラムヘッドを叩き、3・4でマレットの柄の部分で打ち鳴らす。
4. 音楽なしでレッスンをしてみましょう。レッスン中はリズムのキープやカウントに注目します。アクティビティ中、安定したテンポから、テンポを変えたりします。
リズムのキープや数のカウントといったことに集中します。アクティビティの進行具合で、安定したリズムに注目したり、テンポを変えたりします。

参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士

音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.

リズムにのって演奏・交代する

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン 4



対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性

スキル領域

言葉の理解、算数、シークエンシング、集中力、粗大運動、チームワーク、順番で交代する/衝動のコントロール

目標

1. ドラムを叩きながら、またマレットをリズムにのって次の人に渡すことができる。
2. 特定のリズムやリズムのフレーズを聞いて、リピートできる。
3. より正確なタイミングでできるようになる。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. さまざまなリズムのパターンを聴きとり模倣できる
2. 自分独自のリズムの作り方がわかる。

教材

- レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット 1 人 2 本ずつ
- ※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多いグループでは交代して叩くようにする。
- ドラムテーブルアクティビティシリーズ
Video レッスン 4
comfortsoundtechnology.com/lessons (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

コール&レスポンスを使ってリズム渡しをします。

1. 他の人が演奏をよく聴くことの重要性について教えます。他の人が叩いたことをまねしたりリピートすること（Call & Response）を、参加者の能力に応じてはっきりと伝わるように方法を考える。言語によるコミュニケーションが難しい参加者グループに対しては、言葉に頼らず、お手本をシンプルな形で見せることが適しています。この段階では、いかに正確にリズムを再現かは重要ではありません。他の人の音をよく聴き、リピートしたり、似たようなリズムを演奏しようとする事自体がここでの目的です。
2. 簡単なリズムパターンを順番に回して見せましょう。再現しやすいシンプルなパターンからはじめましょう。
例：1・2・チャチャチャ
3. リズムパスを何周かうまく回せたら、参加者に自分のリズムをパスしていってもらうようにリードを任せます。その際、なるべくシンプルなパターン、フレーズにするよう伝えます。

応用編

1. 参加者やあなた自身が好きな音楽を使ってみましょう。
2. 他の動きをとりいれてみましょう。（足踏み、ダンス、体を揺らす、手を叩く、シェイカーを振る、他の楽器を演奏する）
3. 音楽なしでレッスンをしてみましょう。レッスン中、リズムのキープやカウントといったことに注目します。アクティビティ中に安定したテンポから、テンポを変えたりします。

参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士
音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.

演奏しながら歌う

対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性

スキル領域

言葉の理解、算数、シークエンシング、集中力、粗大運動、順番で交代する/衝動のコントロール、チームワーク、言語コミュニケーション、知識、演奏

目標

参加者は、

1. 聞き覚えのあるリズムパターンやメロディーを聞き分けることができるようになる。
2. 聴いて思い出したり視覚的に表現したりすることができる。
3. 知っている歌のリズムを選んで演奏するようになる。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. リズムとメロディーについての理解が深まり、ドラムで叩いている歌を聞き分けられるようになる。
2. ドラムをたたきながら、リズムに合わせて声を出せる。

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン 5



教材

- レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット 1 人 2 本ずつ
- ※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多い
グループでは交代して叩くよ
うにする。
- ドラムテーブルアクティビ
ティシリーズ
Video レッスン 5
[comfortsoundtechnology.com/le
ssons](http://comfortsoundtechnology.com/lessons) (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個別に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を行うこと。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

1. まず、聞くこと、順番に交代すること、一緒に演奏することの重要性についてディスカッションしましょう。リズムと言葉について話します。音楽と言語の関係と同様に、リズムと言葉が密接な関係にあることを示しましょう。
2. 次に、ハッピーバースデーやジングルベルなど良く知られたシンプルなメロディーを歌いながらドラムを叩きます。はじめはあなたがゆっくり歌いながらドラムを叩くのを参加者に見せるのがよいでしょう。その後、参加者グループにもやってもらいます。一緒に大きな声で歌うようにしましょう。言語能力に制限のある参加者には、ハミングしたり、何らかの音を発声してついてきてもらいます。次に、また別のよく知っている歌で同じように繰り返します。
3. うまくいった後に、今度は生徒に自分の好きな歌を選ぶか、生徒が作った歌で、歌いながら演奏します。その後、グループでもそれを歌いながら演奏しましょう。
- 4.

応用編

1. CD音源を使って歌いながら演奏してみましょう。
2. 歌なしでリズムだけを叩いて生徒に「曲名あて」をしてもらいましょう。
3. 生徒にもリズムを叩いてもらい他の生徒に「曲名あて」をしてみましょう。
4. グループオリジナルの歌を作ったり、よく知っている歌の歌をグループに合わせて作り変えて替え歌をつくりましょう。

参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士

音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.

音のボリュームとテンポ

対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性、演奏/レクリエーション

スキル領域

聴覚認知、言語受容、算数、非言語コミュニケーション、音楽、シーケンシング、記憶力、集中力、粗大運動、感覚の統合、チームワーク、衝動のコントロール、創造力/即興能力、音楽鑑賞

目標

参加者は、

1. 音楽の中で音のボリュームやテンポがどのように使われているかを学ぶ。
2. いろいろなテンポ、音量を聴いて、実際にやってみる。
3. 速い/遅い、大きく/小さく演奏をすることを学ぶ
4. テンポや音量を聴きとって、それに合わせることができる。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. テンポ、音量を理解し、グループとして演奏できるようになる。
2. 速い/遅い、大きく/小さくの演奏を、ひとりでもグループでもできるようになる。
3. 録音された音楽や生演奏を聴いて、テンポや音量を聞き取ることができるようになる。
4. 言語、非言語の合図によってテンポや音量の指示についていけるようになる。
5. グループが一斉に演奏をスタート、ストップできる。

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン 6



教材

- レモ CST ドラムテーブル 40”マレット 1人2本ずつ
 - ※レモ CST ドラムテーブル 30”、22”でも可。その場合、人数の多いグループでは交代して叩くようにする。
 - ドラムテーブルアクティビティシリーズ
- Videoレッスン6
comfortsoundtechnology.com/lessons (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

1. 速い遅い、大きい小さいについてと話します。音の大きいもの、小さいもの、ゆったりしたもの、速いものには何があるか参加者に質問してみます。
2. 大きな音、小さな音、ゆっくり、速い、をドラムで叩いてみせます。
3. まず、テンポと音量という用語について、次にそれらがどのように実際の音楽の中で使われているかを参加者と話し合います。
4. まずテンポについて話しましょう。「1、2、3、4」とカウントします。ゆっくりしたテンポではじめましょう。生徒に4分音符で「1、2、3、4 1、2、3、4」と、ユニゾンでカウントさせます。次にどうやってインテンポで同時にスタートできるか話します。みんなで演奏をはじめる前に、あなたが「1、2、3、4」とカウントするのでそのときの速さに合わせるのだということを説明します。これでグループ全体で同じテンポではじめることができます。
5. 終わるときには「1、2、3、4、ストップ」とあなたが言うことを説明しておきます。実際に参加者に叩いてもらってストップをやってみせましょう。その後、いろいろなテンポでスタート/ストップをやってみます。
6. 次は、大きく、小さくの音のボリュームについての説明です。最初に全員でできるだけ小さく叩き、次にできるだけ大きく叩いてみます。まずテンポの合図をカウントで出してスタートしますが、はじめはとても静かに叩くように伝えます。そしてカウントしてストップさせます。次は大きい音で同様にやってみましょう。次に、改めてあなたが大きく/小さく叩くところを生徒によく見て聞いてもらい、その後にみんなにもついてきてもらうようにします。
7. グループみんなで、はじめは小さく、徐々に大きく、再び小さい音に戻っていくように叩きます。
8. 再びテンポに注意を向けて、ゆっくりはじめ、どんどんどんどん速くします。その後にもた遅くする、などをやってみます。指示は言葉で言っても、言葉以外で伝えてもよいです。

応用編

1. 参加者やあなたの好きな音楽をかけて、そのテンポ、音量に合わせてみましょう。
2. 他の動きをとりいれてみましょう。(足踏み、ダンス、体を揺らす、手を叩く、シェイカーを振る、他の楽器を演奏する)
4. 参加者にテンポや音量の指示を出してもらいましょう。
5. 合図が分かる絵をiPadやカードで出して、音量やテンポの指示として使ってみましょう。
6. ピアノやギターなど他の楽器を使って、テンポとダイナミックスの指示を出してみましょう。

雨を降らせる

対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性、演奏/レクリエーション

スキル領域

聴覚認知、言語受容、非言語コミュニケーション、シークエンシング、集中力、粗大運動、感覚の統合、チームワーク、衝動のコントロール、創造力/即興能力、レクリエーション

目標

参加者は、

1. 参加者は、ドラムを使って物語を語ることを学ぶ。
2. 想像力や創造性を発揮する。
3. 目標達成のためにみんなと一緒に作業する。
4. イメージ誘導、視覚化の言語、非言語の要素に注目する。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. ドラムを使って物語をするときのアクティビティの流れどうやってついていくかを理解する。
2. 手、指、マレットを使ってドラムでいろいろな音を出すことを学ぶ。
3. 体の各部分を大きく動かすことができるようになる。
4. 音の強弱をつけたり、効果音が使えるようになる。
5. 順番に交代できる。
6. 聞いたこと、感じたこと、見たことについて、話そうとしはじめる。

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン7



教材

- レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット1人2本ずつ
- ※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多いグループでは交代して叩くようにする。
- ドラムテーブルアクティビティシリーズ
Videoレッスン7
comfortsoundtechnology.com/lessons (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

1. はじめに、参加者に深呼吸をしてリラックスしてもらいます。次に嵐の雨の音を聞いたことがあるか訊ねます。続いて（参加者の能力を鑑み適当と判断すれば）嵐の時どんな音が聞こえたか、何が起きたか、はじめはどうで終わりはどう、などと質問します。言語能力に制限がある場合は、言葉を使わず単純な動作などで表すのがよいでしょう。見せ方で見せ方を工夫してください。答えがあったときや、あなたがデモンストレーションする時間をつくって、ドラムテーブルをどう使うかを先に簡単に見せてあげましょう。例えば「雨だれの音が聞こえてきたよ」と言ってドラムヘッドの中央を軽く指で叩くなどです。
2. 次にドラムで嵐をつくることを伝えます。はじめに生徒にドラムの上に手のひらで小さい円を描くように軽くこすってもらいます。生徒にゆっくり続けてもらいながら、風の音が聞こえてきたね？と訊きます。風を少し強くドラマティックにしてもよいでしょう。同じ動きを軽く爪を使ってやってもらいます。ベッドに横になりながら嵐の音を聞いている状態を想像してもらいます。風の音から次は、ドラムの上を指先で軽く叩き「雨の音だよ」と聞いてもらいます。指の先で軽くドラムを叩きはじめるのをまずやってみせて、その後にみんなにやってもらいます。風と雨を交互にやってみましょう。

「雨の音がだんだん大きくなってきたのが聞こえるね」と訊ねます。何人かに手を返して爪の方でより大きな音で、激しい雨を表現してもらいながら「本格的に雨が降ってきたよ」と言います。

生徒が嵐を激しくしている間にマレットを2本を取り出します。嵐を続けてもらいながら、「遠くから雷鳴が聞こえてきたね」と訊きます。

3. 2本のマレットを使ってドラムの中央で静かに叩きはじめます。みんなが「雷だ」と言ったらあなたはどんどん雷＝ロールを大きくします。
4. 嵐を聞かせながら、みんなは嵐を見ている、またはベッドに横になって聞いていることを想像させます。この間、参加者が目を閉じたければ閉じていてもよいです。
5. だんだん静かになるようにして、嵐が去っていくことを説明します。雨から風、風から小雨など、はじまりとは逆の順番で戻ります。ドラムを静かに手でこするところまできたら、太陽が出てきて風がおさまってきたことを想像してもらいます。ドラムをこすり続けながら濡れた道を走る車の音を想像させます。
6. 最後に深呼吸をしてもらいます。これまでやったことを振り返ってこのアクティビティを終えます。生徒に何を思った？感じた？など感想を聞きましょう。

応用編

1. 雷の役を参加者に交代でやってもらいましょう。
2. 参加者に嵐をリードする機会を与えましょう。
3. ドラムを使ってできそうなストーリーを他にも考えてみましょう。

ジャングルでランブル※

※ランブル=ごろごろ、がらがらなど、雷などのとどろく音。

対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性、演奏/レクリエーション

スキル領域

聴覚認知、言語受容、非言語コミュニケーション、シークエンシング、集中力、粗大運動、感覚の統合、順番を交代する/衝動のコントロール、創造力/即興能力、レクリエーション

目標

参加者は、

1. 交代でドラムを叩いて、マレットを渡すことを学ぶ。
2. 他の人の動きをどうやってまねするかを理解する。
3. つなげて流れにすること、創造力が向上する。
4. マレットでロールして、チームでランブルする方法がわかる。
5. 安定したテンポのビートでそろって演奏できるようになる。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. ボディーランゲージやアイ・コンタクトの合図による指示に従うことができる。
2. オリジナルな動きのつくり方を理解する。
3. 「ランブル」※という言葉での指示に従う。
4. ドラムロールができるようになる。

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン 8



教材

■レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット 1人2本ずつ
※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多い
グループでは交代して叩くよ
うにする。

■ドラムテーブルアクティビ
ティシリーズ

Videoレッスン 8

[comfortsoundtechnology.com/le
ssons](http://comfortsoundtechnology.com/lessons) (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の
一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用
を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士である
か、認定音楽療法士と協力して
行う場合、付属資料「音楽療法
ガイドライン」を参考いただき、
対象者へのより深い機会の提供
にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

1. 「ジャングルでランブル」という楽しいゲームの準備として、まずドラムロールを学ぶことを話します。ドラムロールをまずやってみせた後、みんなにも一緒にロールしてもらいます。必要に応じて生徒をヘルプしてください。ここではドラムロールが正確にできることが重要なのではなく、他の人の演奏を聞いて、同じことをしようとする事自体を目的とします。
2. マレットが速く弾むためには手首を柔らかくする必要があることを参加者に示します。みんなでドラムロールをすることがわかったところで、みんなで一斉にロールするとランブルみたいに聞こえることを説明します。あたかもジャングルにいる象の咆哮のように。
3. 次に、ジャングルにどんな動物が生息しているか訊きます。言葉のコミュニケーションに制限がある参加者の場合には、iPadで動物の画像を見せたり、プリントした絵を用いて、動物を思い出す助けにします。
4. 次に、体やマレットを使って、出てきた動物の真似ができるかききます。例：さいの牙、像の鼻。

応用編

1. ランブルのリーダー役は交代で選びましょう。
2. 参加者にランブルをリードする機会を与えましょう。
3. ドラムを使ってできそうなストーリーを他にも考えてみましょう。

参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士

音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.

X O X O (ハグ&キス、ハグ&キス)

対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性、演奏/レクリエーション

スキル領域

聴覚認知、言語受容、非言語コミュニケーション、算数、音楽、その他、シークエンシング、記憶力、集中力、衝動のコントロール、自己評価、創造力/即興能力、演奏

目標

参加者は、

1. 抽象的なシンボルがドラムをどう叩くかを表すのに使われていることを理解する。
2. あるリズムやリズムのフレーズを聞いてリピートする。
3. 即興することに取り組み始める。
4. シンボルとその意味の関連づけができる。

目標

参加者は、

1. X と O という抽象的なシンボルを使って異なるリズムパターンを作ることができることを理解する。
2. X と O を使って自分オリジナルのリズムの作り方がわかる。
3. 他の人と一緒に連続したシンボルを読み取って演奏する。
4. X と O の記譜を見て実際に演奏する。
5. 指示に従って、連続すること、抽象的な思考力、想像力を向上する。

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン 9



教材

- レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット 1 人 2 本ずつ
- ※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多い
グループでは交代して叩くよ
うにする。
- ドラムテーブルアクティビテ
ィシリーズ
Video レッスン 9
[comfortsoundtechnology.com/le
ssons](http://comfortsoundtechnology.com/lessons) (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

1. みんなで演奏する時には、他の人の音をよく聞くことが重要であることを説明します。ひとがやったことを真似したり、繰り返す方法について、参加者の能力に応じて分かりやすく伝えます。言葉によるコミュニケーションが限られているグループでは、言葉を使わず見本を見せるシンプルな方法がよいでしょう。ホワイトボードに4×4マスの表を書くとところからはじめますが、ホワイトボードがなければ黒板や大きなサイズの紙で代用できます。
2. 表1を書きます。Xは1回ドラムを叩く、0は叩かないということの説明をします。4分音符で1、2、3、4とカウントしながらXでどう叩くかを見せます。ここではいかに正確にリズムを再現するかが重要なのではなく、他の人の音を聞いて、シンボルと叩く、叩かないことを関連づけることができ、それに従った行動ができることが目的です。
3. ビートによってXのシンボルで叩けるようになったところで、Xを消して代わりにOを入れます。Oのマスでは叩かないことを説明し、実際にやって見せます。その後、参加者をリードして一緒にOのついたボックスをやってみましょう。
4. 次に表2を使ってリズム回しを数回やりましょう。次に参加者に自分が作ったリズムで回すようリードを任せます。ホワイトボードの記譜を参考になるべくシンプルなパターン、フレーズにするように勧めます。

応用編

1. 記譜や読譜の基本を学ぶのに表を使うことができます。例えば表3を使って、全音符、2分音符、4分音符、8分音符をやってみせます。上手にできるようになったら、XとOを通常の音符や休止符に置き換えます。音価（音の長さ）を、音符や休止符でやってみましょう。
2. 演奏する曲を作ったり、他のレッスンの指導やフレーズや曲を教えるときも、XとOの表が役立ちます。
3. ドラムロール、左手で叩く、音量の大小、太鼓の真ん中を叩く・サイドを叩く、マレットを打ち鳴らすなど、あなたもしくは参加者で他のシンボルもつくってみましょう。

参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士
音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.

表 1			
1	2	3	4
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X
X	X	X	X

表 2			
1	2	3	4
X	X	X	X
X	0	X	X
X	0	X	0
X	0	0	X

表 3			
1	2	3	4
X	0	0	0
X	0	X	0
X	X	X	X
X	X	X	X

本印刷物の著作権は以下の個人と会社に帰属します。内容の一部または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson, ミュージック&パフォーミングアーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener, MT-BC 米国認定音楽療法士 音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.



翻訳 《レモワールドパーカッション総輸入発売元》

株式会社 ヤマハミュージックジャパン

●お問い合わせ：楽器営業本部 〒108-8568 東京都港区高輪 2-17-11 TEL. 03-5488-6705

2016年11月制作

